

いい表情の子を育む

長い休みが終わり、子どもたちの声が校舎に響いています。

今年の夏は、熊本で大きな地震が発生し多くの方々が被災され、今なお不自由な生活をされています。また、交通事故や水難事故、ゲリラ豪雨による水害等のニュースを耳にする機会が多かったように感じます。そのような中で、子どもたちが元気に登校してきたことを幸せに感じています。

37日間の休みの期間、各ご家庭ではどのように過ごされていたのでしょうか。

私は、特に泊りでどこかへ行くことは計画していませんでした。しかし、これだけは！と考えていたことがありました。それは、「大学時代の友達と会う」ということです。

大学時代、私は7人グループで活動をしていました。大学近くに一人暮らしをする者、小田急線を通ってくる者、京王線を通ってくる者、南武線を通ってくる者、出身地も生活パターンも違っていました。ですが、なぜか馬が合い、常に行動を共にしていました。急遽授業が休みになってしまった時には、一人暮らしをしている友達の部屋で7人で過ごすということもありました。また、大学祭の時には、「ナイトハイク」といって新宿から約20km離れた大学まで夜通し歩くというイベントに7人で参加したこともありました。

そのような7人でしたが、それぞれが地元へ戻り仕事を始めると、少しずつ疎遠になっていきました。主に年賀状やSNSで「会いたいね」と言いつつも、実際には顔を合わせるということにはほとんどありませんでした。なので、「今年こそは！」と思い、高知県在住の友達へ連絡を取りました。すると、運よくその友達が8月上旬に東京近辺へ来ることがわかりました。そこからが大変です。SNSでつながっているメンバーは、わたしを含め5人です。残る2人のうち1人は、連絡先が分かるので、すぐにSNSでつながることができました。しかし、あと1人とどのように連絡を取ろうか…と悩みました。ですが、友達が連絡先を知っていたこともあり、無事につながることができました。そして、最終的には5人で会うことができました。

5人で会い、大学時代のことや近況を話したり聞いたりする中で、一人ひとりの足跡が見えてきました。今は笑顔でいるけれど、大きな病気をして大変な時期を過ごしていた人がいたこともわかりました。人生100年の時代と言われています。折り返しを過ぎている私にとっては、「いつでも会える」から「いつかは会える」になり、今は「会える時に…」に変わってきています。ほんの短い時間ではありましたが、貴重なひとときとなりました。

大学時代の仲間の一人に、熊本県の出身者がいます。今回の地震の件で、その友達とも連絡をとることができました。実は、大学の後輩の中に、大学時代の仲間と会うために全国を行脚している人がいるのです。その人のおかげで連絡をとることができました。

人間関係が希薄と言われている昨今ですが、自分とかかわりのある人へ思いを馳せることの大切さを実感しています。子どもたちへ人と人とのつながりについて伝えていきたいと思っています。

これからの時期も暑さが続きそうです。体調を崩さないように過ごしていきたいものです。ご自愛ください。

校長 山川 佳美